

平成30年度 第10回富里市教育委員会定例会議 会議録

富里市教育委員会

- 1 期 日 平成30年11月27日(火)
開会 午後2時
閉会 午後3時57分
- 2 場 所 本庁舎3階第3会議室
- 3 出席委員 教 育 長 國 本 與 一
教育長職務代理者 森 田 惠 子
委 員 會 田 直 子
委 員 川 口 泰 弘
- 4 欠席委員 委 員 田 口 明
- 5 出席職員 教 育 次 長 中 嶋 保 雄
教育総務課長 中 津 義 孝
参事兼学校教育課長 竹 尾 裕 之
学校給食センター所長 押 尾 忠 久
生涯学習課長 梶 山 健 二
図書館長 荒 居 富 男
- 6 事務局職員 教 育 総 務 課 小 川 正 久

平成30年12月25日

署 名 人

署 名 人

会議録作成人

1 教育長開会宣言

【教育長】平成30年度第10回富里市教育委員会定例会議を開会する。

2 前回会議録の承認

平成30年度第9回定例会議会議録承認

(署名人：會田委員，川口委員)

3 教育長報告

本日は、皆様に出席いただき誠に感謝する。11月になり晩秋を迎えて、日の暮れがますます早くなっている。自転車で下校する中学生はライトを点灯することになるが、交通事故には気を付けてほしいと思う。さて、本日の会議は、議案，協議事項，報告事項，その他の内容となっている。

それでは出席行事等について報告する。

10月28日，英語スピーチコンテスト・パフォーマンス発表会が行われた。小学生の参加が増えてよい発表会となった。

31日，青い麦の子合同学習発表会が行われ，各学校の工夫された発表があった。

11月10日，平和を考える作文コンクール表彰式では，市長賞として日吉台小学校6年生などの5名が受賞した。平和学習リーダー長崎訪問報告会では，6名の中学生が発表した。

15日，教育長・教育委員研修会に教育委員とともに出席した。午後の分科会では，本市学校教育課の指導主事より本市の特別支援教育の一端が紹介され，富里市の理解が深まる発表となった。

21日，富里市定例表彰式が行われ，青少年相談員など16名が受賞された。富里市教育委員会表彰では，学校医など24名が受賞された。富里市文化祭児童生徒作品展優秀賞は，絵画の部，書写の部でそれぞれ9名が受賞された。生活安全・交通安全啓発標語優秀作品賞は，10名の小・中学生が受賞された。富里市教育委員会教育長顕彰では，硬式テニスの選手など11名が受賞された。

23日，富里市小学生ハンドボール大会が開かれた。この大会は，日吉台ハンドボールクラブ創立30周年記念大会を兼ねて行われた。

今後の予定では，富里市議会12月定例会が29日に開会し，12月19日に閉会の予定になっている。

4 教育委員報告

【委員】10月31日、富里中央公民館を会場に開催された第2回富里市青い麦の子合同学習発表会に参加した。各小・中学校、そして特別支援学校による元気なダンスや和太鼓、英語劇など各学校のアイデアが盛り込まれた発表であった。

11月9日、平成30年度印旛地区教育委員会連絡協議会研修視察に参加した。午前中に視察した順天堂大学さくらキャンパスでは、社会貢献・社会連携取組の説明を受けた後、学内の施設を見学した。陸上トラックや種目別の施設の充実に驚いたとともに、2020年の東京オリンピックに同大学の選手が出場することに期待を持った。午後は、富里市七栄地先にある旧岩崎家末廣別邸に関する研修となった。見学の前に富里市立図書館で歴史などの説明を受け、その後、現地で中庭や母屋などを見学した。貴重な建物なので一部修繕などにより将来に残していきたいと思う。また、視察終了後に意見交換会が開かれ、他の市町の教育委員等と貴重な時間を過ごした。

11月15日、平成30年度第1回教育長・教育委員研修会が千葉県総合教育センターで開催された。午前中は、新教育課程実施上の課題及び解決に向けた教員の資質能力の向上について、パネルディスカッションなどが行われた。午後からは、3分科会に分かれ、「主体的・対話的で深い学びを支える読書活動の充実について」をテーマとした第2分科会に参加し、千葉県教育委員会からの説明の後、多古町、袖ヶ浦市の各学校教育課長より実践発表があり、司書を学校図書館に配置することにより読書率が上がったという報告があった。意見交換では、参考になったという意見や学校図書館への司書配置には財政事情を伴うなどの意見があった。

【委員】11月11日に富里市青少年相談員連絡協議会主催の第2回家族でとみさと探検クイズラリーに参加した。クイズラリーをしながら富里市の農産物・企業・歴史について、楽しく学ぶという企画であった。100名以上の参加の中、長い距離を歩くことに不安があったが、楽しくあつという間に時間が過ぎた。参加者は、人参畑の広がりを中心に親子などで会話をしながら楽しそうに歩いていた。川原鳥獣貿易株式会社では、230種類以上の動物が飼育され、東京動物専門学校の学生が動物の飼育管理の基礎技術を学ぶ実習を行っていた。たくさんの動物と触れ合うことで、参加した子供たちは楽しい時間を過ごすことができたと思う。また、旧軽便鉄道の富里駅や富里牧羊場跡などをめぐり、クイズを解きながら進んだ。集合場所となった富里市農林業センターでは、富里

産の野菜を使った「とみちゃんうどん」や綿飴をいただき、クイズラリーの結果による賞品を全ての参加家族が受け取っていた。うどんを食べながら家族で楽しそうに会話している子供たちの笑顔やうれしそうな親の顔を見ると、もう一つの目的である親子の交流は十分に達成されたと思った。また、青少年相談員の手際と無駄のない準備などがすばらしかった。様々な賞品や食材の用意ができたのは青少年相談員の今までの活動の上の成果であると感じた。

11月12日に市教育委員会移動地域教育懇談会が富里小学校で開催された。テーマを「子どもたちにつけさせたい力」学校・家庭・地域でできることは、として行われた。まず、富里小学校の教頭より学校発表があった。趣旨は、未来の仕事はかなりの割合で自動化され、その未来を生きていくために自ら課題を発見し他者と協働してその解決を図り、新しい知・価値を創造する力を育成していきたいというものであった。また、学力向上のため様々な取組を行い、褒めて伸ばす指導を基本として自尊感情を養っているとのことであった。その後のグループ討議では、保護者、先生、教育委員、教育委員会事務局などの10名程度で一つのグループを構成し、活発な意見を交換した。私のグループでは、ゲームを途中で止められない子供の話が出た。これは、気持ちの切り替え、忍耐力など子供の自立にとって大切な要素と関係があると思った。初めは互いに緊張していた参加者も話し始めると打ち解けていくようで楽しい時間となった。今後も話をする機会を設けてほしいという保護者の声もあり、参加者には貴重な機会となったと思う。同時に、参加できなかった保護者の声を拾う努力も必要であると感じた。

11月15日に参加した教育長・教育委員研修会の分科会について報告する。三つのテーマの内、子供たちの発達への支援に向けた取組についての分科会に参加した。発達障害などにより特別な支援を必要とする子供たちは学校全体で支援をすることが重要であり、学習上の困難を軽減するための個別支援や合理的配慮、校内体制の整備、校内研修などについて考えた。千葉県教育庁教育振興部特別支援教育課からの説明の後、本市教育委員会の指導主事による実践発表があった。富里市の特別支援教育に関する9つの取組が紹介され、特に印象に残ったのはライフサポートファイルの取組で、幼児の頃から小学校、中学校、さらにその先まで見通した子供たちのサポートを記録している個別の教育支援計画である。保護者にとってはファイルを見ることで理解が深まる点、また、学校にとっては具体的な手立てを講じるための資料となることなど、互いにメリットが大きいので今後も活用をお願いしたい。

【委員】 10月28日、富里市中央公民館で開催された第11回富里市英語スピーチコンテスト・パフォーマンス発表会に参加した。今回は英語スピーチ暗唱部門に24組の参加があり、英語に興味を持ち日々練習してきた成果が元気いっぱいに発表された。自分の思いを会場の人々に伝えようと具体物を用いたり体全体を使って表情豊かに表現するなど、発表のレベルが上がっていると感じた。パフォーマンス部門は2組の参加があった。どちらのグループもみんなで協力して練習してきた様子がよくわかった。大きな声ではっきり発音し楽しく歌って踊って、その表情はとても生き生きとしていた。英語を楽しんでいる姿がとても印象的であった。その後、アメリカホームステイ体験ツアーに参加した中学生による報告があった。2つの中学校での授業体験や休日をホストファミリーと一緒に過ごし、日本との違いを感じることはもちろん、自由な環境でもしっかり話を聞き意欲的に学習している姿を見たり、自分の意思をはっきり伝えることの大切さを感じ取ったりするなど、たくさんのお話を吸収し、積極的に関わろうとしてきたことが、中学生の発表からうかがえた。英語スピーチコンテスト・パフォーマンス発表会は、今年で11回を迎え、長い間続いていることは支えてくださる多くの方々のおかげであると思った。日頃から英語に興味を持ち英語を一生懸命に勉強している子供たちはたくさんいる。この子供たちが自分の力を試す発表の場があるということは、素晴らしいことである。もっと多くの方が関心を持ち、子供たちの発表を見守っていただきたいと感じた。

11月7日に富里市生涯学習家庭教育講演会に参加した。千葉大学教育学部の特命教授による「子供の発達段階に応じた親の向き合い方」をテーマとした講演が行われた。幼児期からそれぞれの発達段階の中で子供たちは信頼感を持ち、自立性・自発性・勤勉性などの色々な力を身に付けていく。子供たちが健全に育ち自立していけるように親としてどう関わればよいかなど、色々な例を挙げてわかりやすい話であった。子供へ愛情を注ぐことの大切さ、子供としっかり向き合い気持ちを受けとめることの大切さを感じた。親や家庭のあり方が子供の成長に大きく関わることはもちろん、家庭と学校と地域がしっかりつながって子供たちを育てていく必要があると思った。このような話は、子育て中の多くの皆さんにぜひ聞いてほしいと感じた。

11月15日に千葉県総合教育センターで行われた第1回教育長・教育委員会研修会に参加した。午前中の全体会では、新教育課程実施上の課題及び解決に向けた職員の資質向上をテーマとしたパネルディスカッションが行われた。柏市・栄町・香取市の教育長がパネラーとなり、3つ

の視点からディスカッションが進められ、まず新教育課程を円滑に実施するための取組として、先行実施している小学校における外国語科の指導について報告があった。ほとんどの学校が富里市のようにALTやJTEとのチームティーチングの形態をとっていて、有効な手段と思われるが、小学校の教員全てが英語に堪能というわけではなく、授業内容や評価、役割分担などについて、ALTとの細かな意思疎通が難しいなどの課題が挙げられた。学級担任や外国語担当教員の指導力・英語力の向上が求められると思われるが、現在の学校の状況を考えると英語専科の配置が望ましいと感じた。次に、チーム学校としての取組では、校内におけるチームとしての学校、やりがいのある魅力のある学校づくりを進めるために、教員一人ひとりの特技や課題意識を活かしOJTによる指導力の向上を目指していることや地域と連携していく学校経営について報告があった。富里市でも既に行われているが専門性ある地域の人材と連携し、協力して授業を進めることや分担して多忙化の軽減を図っていくことなどは、とても大切なことで進めていくべきであると感じた。最後に、教員の資質能力の向上に向けた研修のあり方については、学力の向上を教員の資質・能力の向上につなげているということであった。その中で印象に残ったのは、教員の資質・能力というのは単に指導・技術だけではなく、誠実に自分と向き合い、人、つまり子供を理解する力を育むことだという言葉である。とても大切なことであるとともに、難しいことでもあると感じた。

5 議案

【教育長】次に議案に入る。議案第1号平成31年度富里市教育委員会の歳入歳出予算に係る意見について、事務局より説明を求める。

【教育次長】本案は、平成31年度の富里市の予算編成にあたり、教育委員会に係る予算への配慮を求める意見書を市長に提出することについて、富里市行政組織規則第8条第3号の規定により教育委員会の議決を求めるものである。また、教育委員会は、今後、ますます市長と連携して、将来の富里市を担う子供たちが充実した教育を享受することができるよう、教育環境の整備、自然や歴史的・文化的資源の活用等を推進するため、教育予算の充実と確保は必要であり、教育施策の実現に向け特段の配慮を願うとともに事業推進に必要な経費の確保に理解をいただくため、教育委員会で議決の上、市長に意見を申し出るためのものである。具体的な内容は、資料5ページに記載の1から15までの事業で、小・中学校の空調機設置事業、小・中学校の既存

不適格事項対応事業，教育指導事業，英語教育推進事業，教育センター事業，個別指導補助員配置事業，小・中学校の教育振興事業，旧岩崎家末廣別邸保存活用事業，郷土資料館整備事業，公民館管理事業，図書館施設管理事業，資料整備事業の充実である，よろしくご審議の上，可決されるようお願いする。

【教育長】説明が終わった。質疑等があればお願いする。

【委員】小・中学校の既存不適格事項対応事業について，具体的に内容を説明願う。また，対象となる学校について併せて教えてほしい。

【教育総務課長】防火シャッターについて，人の挟み込み防止機能を現行制度に対応させる改修事業である。対象校では，小学校は4校で，富里南小学校，日吉台小学校，根木名小学校，七栄小学校である。中学校は2校で，富里南中学校と富里北中学校である。富里中学校は本年度に終了する予定である。その他，既存不適格事項には，小荷物昇降機，いわゆる給食用エレベータに防火区画を設ける必要があり，併せて改修を行う予定である。対象校は，防火シャッターを改修する予定の小学校4校に富里第一小学校を加えた5校である。中学校は防火シャッター改修予定の2校と同じである。

【教育長】他に質疑等があればお願いする。

【委員】英語教育推進事業の充実では，ALTやJTEの配置に係る予算が含まれるのか。また，今年から富里市では英語を教科として小学校で指導しているが，英語科の評価について教員に悩みが生じていると思う。そこで，英語評価の仕方について，実際の現場で指導できる指導員などを派遣又は配置する予定はないか。

【参事兼学校教育課長】ALTやJTEに係る予算は，英語教育推進事業の中で計上している。平成31年度にあたり，評価の仕方について指導助言をするような外部人材の活用を考えていないが，外国語活動の評価の仕方については，現在，指導主事又は県教育委員会主催の研修会などで教職員は研修を行い，現段階では英語科は完全実施ではないものの，試行錯誤をしながら取り組んでいるところである。

【教育長】他に質疑等があればお願いする。

（質疑なしの声あり）

【教育長】他に質疑がないので採決する。議案第1号について，原案のとおり可決することに異議はあるか。

（異議なしの声あり）

【教育長】異議ないものと認め，議案第1号は原案のとおり可決した。

6 協議事項

【教育長】次に協議事項に入る。(1) 就学援助制度の対応について、事務局からの説明を求める。

【参事兼学校教育課長】生活保護基準の見直しに伴う平成31年度以降の就学援助制度の対応について説明する。就学援助制度については、認定審査時に生活保護基準を参照し判定している、平成30年10月1日より生活保護基準の見直しが行われた。これに先立ち政府及び参議院厚生労働委員会は、見直しに伴う国の他制度への影響について、できる限りその影響が及ばないように対応することとし、地方自治体で独自に実施している準要保護者に対する就学援助についても、対応方針を理解し適切に判断・対応をするよう求めているため、平成31年度以降の就学援助認定審査時の生活保護基準について、見直し前の基準で参照することの協議である。

近隣市の平成31年度算定に用いる生活保護基準に係る調査結果では、成田市及び印西市は見直し前の基準を用いる予定であり、佐倉市及び四街道市は見直し前の基準を用いることになっている。八街市及び白井市については、もとより生活保護基準を認定審査に用いていない。

資料10ページに算定に用いる生活保護基準を見直し後のものとした場合の影響等を記載している。平成30年度に認定されている児童生徒のうち、中学校第3学年を除く準要保護児童生徒認定者の全てが認定年度と家族構成や収入に変化がない状態で次年度も就学援助を希望した場合は、認定却下となる件数が下表のとおりとなり、見直し後の基準で審査すると6名の児童生徒が認定されないことになる。

資料12ページは、参考世帯を用いた見直し前後の比較を記載している。準要保護認定審査では、合計収入額が生活保護法第8条の規定に準じた当該世帯員等の合計需要額に1.5を乗じた額を下回るものを認定としている。下表の参考世帯は、母親1人、子は、高校生1人、就学援助対象の中学生1人及び小学生1人の計4人世帯としている。収入状況は給与収入及び児童扶養手当があり、年額として415万280円、月額で換算すると34万5,857円としている。生活保護基準については、左の表が生活保護基準見直し前で、右の表が見直し後の表である。生活扶助費の減額が大きく、他の扶助費等については微増となっている。生活保護基準見直し前の月額合計は23万3,595円、見直し後の月額合計は22万4,651円となり、見直し前よりも見直し後が8,944円の減額となる。見直し前後の表の下に審査数値の計算式があるが、収入月額を保護費合計で割った数値が審査数値となる。その上で合計需要

額の1.5を下回るか上回るかによって認定か却下かを判定する。参考世帯では、見直し前は認定となるが見直し後では却下と判定される。あくまで参考例なので、世帯員の年齢構成や就学児童生徒の人数などの要因により生活保護基準の数値も変動するが、この判定では、今年度には認定された準要保護者のうち6人が却下となる。これらの検討と結果を踏まえて、平成31年度以降の本市の対応については、準要保護について、政府の対応方針、参議院厚生労働委員会の附帯決議及び近隣市の状況を踏まえ、見直し前の生活保護基準を用いて算定することとし、要保護については、原則として富里市就学援助費支給規則のとおりとすることを考えている。就学援助制度全体としては、今後も国の方針や制度改正等の状況を注視し対応していく。

また、今回の協議事項について承認をいただいた場合は、次回以降の定例会において、富里市就学援助費支給規則の一部改正のための議案を上程したいと考えている。資料11ページの下段に記載の準要保護児童生徒の認定基準については、今回の生活保護基準の改正に併せて、どの時点の基準を用いるかを明文化するため、準要保護児童生徒の認定基準を見直し前の基準を用いて算定する旨の規則改正を行いたいと考えている。

【教育長】説明が終わった。質疑等があればお願いします。

(質疑なしの声あり)

【教育長】質疑がないので本協議については、本日の内容を踏まえ事務局で調整していくこととする。

7 報告事項

【教育長】次に報告事項に入る。報告事項(1)「富里市教育委員会点検及び評価」及び「平成31年度とみさと教育プラン」に係るスケジュールについて、事務局から説明をお願いします。

【教育総務課長】資料13ページのとおり、富里市教育委員会点検評価では、平成30年度9月末時点の中間評価を実施しているところである。平成31年4月以降に完了評価の案を作成し、定例会議で協議をお願いします、平成31年8月の定例会議に議案として上程する予定である。

次に、資料14ページの平成31年度とみさと教育プラン策定スケジュールでは、平成31年1月から作成作業に入り、2月の定例会議で内容の協議を行い、3月の定例会議で議案として上程する予定である。

【教育長】説明が終わった。質問等があればお願いします。

(なしの声あり)

【教育長】次に報告事項（２）児童生徒数の推移について、事務局から説明をお願いします。

【参事兼学校教育課長】児童生徒数の推移について、各小・中学校の児童生徒数と学級数の状況について報告する。

資料１５ページから１７ページは、学校別の児童生徒数の推移であり、平成２５年度から現在までの状況と平成３５年までの推計、そして平成４０年度の見込みを参考として記載している。まず、平成２５年度から平成３０年度までの児童生徒数の推移では、増加しているのが富里小学校・浩養小学校・七栄小学校となり、その他は横ばい又は減少となり、全体的にはわずかに減少傾向である。

次に、５年後の平成３５年度までの推計では、現在の未就学児人口を基に推計し、現在と比較してわずかではあるが増加すると思われるのは、富里第一小学校・富里南小学校・浩養小学校・富里中学校であり、それ以外は減少傾向となり、全体的にも少しずつ減少すると思われる。また、各学校のクラス数の推移では、児童生徒数に応じて変動すると思われるが、特別支援学級の推移については予測できないところがあるので、あくまで現状での見込みである。

学校別の状況について、富里小学校では過去５年間は増加傾向であったが５年後は減少傾向と推測される。富里第一小学校は現在までの減少からわずかであるが増加に転じる。なお、平成２７年度の児童数が大きく減少したのは、学区内の新１年生がこの年に特に少なかったことによる。富里南小学校も減少から増加に転じることが見込まれる。浩養小学校は増加傾向となっているが平成２７年度から小規模特認校として推計に２名を加算している。小規模特認校制度や浩養幼稚園との連携が図られている効果も表れていると思われ、以前に危惧された複式学級への対応は、今のところ必要ないと思われる。なお、今年度から特別支援教室が設置され、現在、余裕教室がないことから特別支援教室を増設する場合には施設改修を含めて検討する必要がある。日吉台小学校は減少傾向が続いている。また、進学先では、私立中学校への進学が多い傾向から今後の富里北中学校への影響を注視していきたい。根木名小学校も減少傾向が続いているので今後の状況を注視していく。なお、平成３２年度からクラスの児童数が減少する見込みなので、水泳授業を委託方式の水泳指導教室に変更することについて、今後の状況により検討していく。七栄小学校は増加傾向から減少に転じるが、増加のピークは平成３２年度まで続くものと思われる。また、富里第一小学校と七栄小学校の学区については、保護者の意向で学校を変更することが他の学区よりも多い状況に

あるが、今後の対応は地域等の状況を見ながら検討していきたい。なお、七栄小学校は、平成27年度の児童数が多くなっているが、この年は新1年生の学区内の児童が多かったためである。

次に中学校について、富里中学校はわずかであるが増加傾向にある。富里北中学校は日吉台小学校と同様に減少傾向が続いている。この中学校は、日吉台小学校からの進学先となるが、私立中学校への進学も多いことから5名分を推計から減している。今後、日吉台小学校とともに状況を把握するとともに、将来的な展望として小中一貫校の対応なども含め、検討する必要性が生じる可能性があると思われる。富里南中学校は少しずつではあるが減少傾向となる。各学校の状況説明は以上である。

なお、平成40年度の推計については、学年ごとに算出することが困難なため、学校ごとの平成30年度と平成35年度の増減率を基に試算した参考数値であることを了承願う。

また、今回の推計は現在の人口を基に試算したもので、市で作成した他の人口推計とは異なることのを了承をお願いします。現在、大きな開発事業等は把握していないが、今後、空港関係や大規模な開発等によっては、推計を見直したいと考えている。今後の状況については、関係部署等と情報を共有し把握に努めるとともに、中長期的には市の計画等に留意していきたい。児童生徒数の推移については以上のとおりとなるが、今のところ、直ちに就学区域の見直しや複式学級への対応の必要性はないと考えている。今後も中長期的な視点も含めて動向に注視し、学校への影響について把握し対応していきたい。

【教育長】説明が終わった。質問等があればお願いします。

(なしの声あり)

【教育長】次に報告事項(3)幼児教育について、事務局から説明をお願いします。

【参事兼学校教育課長】現在の幼児教育の現状と幼児教育の無償化、幼小連携について報告する。資料は18ページから20ページになるが、見出しの1から3までは、子ども課からの提供資料であるので了承願う。幼稚園園児数の現状について、富里市立幼稚園2園の状況では、浩養幼稚園が50人の定員に対して28人の在園、富里幼稚園が140人の定員に対して124人の在園児数となっている。次に、市内の私立幼稚園の状況では、太子幼稚園・末広幼稚園・日吉台幼稚園の各園の状況を記載している。なお、日吉台幼稚園は、在園児数が少ない状況にあるが、来年度も定員はそのままとし、園舎の建て替えなどの園児募集に向けた

新たな取り組みを行っている」と聞いている。全体的には少子化の影響もあり、公立・私立とも定員を満たしていない状況にある。

続いて、年齢別就園状況について、0歳から5歳児の就園状況を記載している。表の上から年齢、2段目は年齢別の人口、3段目は市立幼稚園2園の就園児童数の合計で152人である。4段目は富里市立子ども園に就園している幼稚園部の児童数で29人である。5段目は私立幼稚園と富里市以外の子ども園に就園している児童で370人である。7段目は市内の保育園・子ども園で2号認定の3歳以上、3号認定の3歳未満となる就園児童数で、8段目は市外の保育園・子ども園の就園児童数である。10段目は就園児童数の合計、最後の11段目は未就園児童数で、人口から就園児童数を差し引いたもので合計881人である。

続いて、児童数の推移について、資料のグラフは、下から0歳児、1歳2歳と上に向かって最上段を5歳児の記載としている。今後3年間の児童数の推計では、徐々に減少すると推計している。なお、推計については、小・中学校の児童生徒数の推計と同様に、今後の状況に留意していきたい。

次に、幼児教育の無償化による影響について、資料21ページから22ページまでに国からの情報資料を掲載した。来年10月の消費税率引き上げ時に実施が予定されているものであるが、現時点で具体的な手続きは示されていない。3歳児から5歳児までの完全無償化では、未就園の3歳児への影響が懸念される。参考までに現在の富里市の公立幼稚園と民間幼稚園の保育料を掲載している。今後、情報や対応について、わかり次第報告していきたい。

最後に幼小連携について、本市の幼小連携の核となっている浩養幼稚園と浩養小学校の現状として、今回は実際の現場の状況を把握し、現状のメリットや課題等に対し、幼稚園と小学校双方の職員にアンケートの調査を行った。その集計結果について、資料23ページから25ページに記載している。主な部分を説明する。調査日は平成30年12月12日で、回答者は浩養幼稚園及び浩養小学校の職員18人であった。4つの問いを設け複数回答を可とした。問1の現在の施設一体型での幼小連携でのメリットデメリットでは、メリットとして多かったのは、小1プロブレムがない、密接な情報交換による幼小連携の推進が図れるなどの回答があった。デメリットでは、園児の声がうるさかったと思うことがあった、行事日程や場所の調整などが課題、デメリットはないなどの回答があった。問2の浩養幼稚園の運営における現状の課題や改善策では、記載のとおりであるが、改善点はない、幼稚園に教頭職がないなどの回

答があった。問3の廃園等により市での幼稚園運営ができなくなった場合の影響や問題点では、地域に密着し学校と隣接している。小1プログラムの解消、接続がスムーズ、アットホーム、兄弟が隣棟にいるなどの魅力を感じて入園を希望する受け皿がなくなってしまい困るなどの回答があり、どちらかというといふと幼小連携に肯定的な意見が多いので廃園については、現段階では理解が示されない回答になっていると感じる。また、無回答も多かった。問4の浩養幼稚園が廃園になった場合に考えられる施設の利活用方法では、小学校に余裕教室がないので今後の教室として確保したい、少人数教室やPTA活動の利用などが考えられるというような回答があった。これらを踏まえて、現状では幼稚園と小学校に良好な関係が保たれ、施設一体型の幼小連携のメリットが大きいものと職員は感じていることが確認できた。今後については、他の学校における幼小連携の強化にもつながるよう考えていきたい。幼児教育に関する報告については以上となるが、幼児教育を取り巻く環境が変化していることから、幼小連携も含め、今後も関係部署との情報共有と連携を図ってきたい。

【教育長】説明が終わった。質問等があればお願いします。

(なしの声あり)

【教育長】次に、報告事項(4)月例報告をお願いします。

【教育総務課長】11月の月例報告は記載のとおりであるが、11月29日から市議会12月定例会が開会される予定である。12月の予定では、25日に第1回総合教育会議を午前10時30分から本庁舎3階第3会議室で、同日の午後1時15分から第11回教育委員会定例会議を同会場で開催する予定である。

【参事兼学校教育課長】11月の行事では、16日をもって就学時健康診断が無事に終了した。21日には印旛郡市小・中学校音楽発表会に富里小学校・浩養小学校・根木名小学校合唱部門の3校が出場した。また、30日の富里市学校教育研究会公開では教育委員の皆様にご協力をお願いします。森田委員には根木名小学校、會田委員には七栄小学校、川口委員には富里南中学校で、各授業の参観や意見等をお願いしたい。同日には環境教育全国大会が東京大会として府中市立武蔵台小学校で行われるので、教育長と学校教育課の指導主事1名、根木名小学校の2名が参加する予定である。なお、次年度の環境教育全国大会は根木名小学校が会場となる予定であることから、富里市学校教育研究会公開においても根木名小学校は環境教育の授業公開を行い、学校及び教育委員会とて来年度の全国公開に向け準備を進めているところである。

12月の予定では、3日が校長会議、7日が教頭会議、19日がジョイント・スクール南学園のスポーツ大会、24日からは冬季休業の開始を予定している。

次に、平成30年度分学校給食費徴収状況については、10月末日現在、98.12%であり、前年同期比で0.11ポイントの減となった。

11月には現年度未納分を対象として電話催告を実施しているところである。引き続き徴収率向上に努める。

次に、11月5日に平成30年度第7回校長会議を行った。冒頭に、子育て支援課及び教育総務課からアンケート調査等の協力依頼があった。学校教育課からは学校の現状について、事故等の案件では、10月中に児童生徒の軽微な交通事故が5件あった。小学校が4件、中学校が1件の登下校中の接触事故であり、学校には再度安全教育の徹底をお願いした。併せて、不審者情報が1件あったことを報告した、また、長欠・不登校の現状では、昨年度よりも特に小学生の長欠・不登校率が増加しているため、再度、小学校での対応をお願いした。教職員の服務関係では、綱紀の粛正について、千葉県教育委員会からの指導も入っているので、再度、各校長に指導伝達を行い、各校の教職員の感性を高めてもらいたいという趣旨の話をした。特にセクシャルハラスメントや体罰については、変化に気づく感性の重要性を説明した。最終退勤者の施錠時刻の現状では、退勤時刻の平均が小学校で21時8分、中学校で21時21分ということなので、小・中学校ともに21時前には退勤できるようにお願いした。来年度の夏季休業中の学校閉庁日について、2019年度は、8月8日から8月19日までの12日間を予定するので、夏季休業中であるものの、行事予定などの作成に留意するよう伝えた。また、来年4月30日、5月1日及び5月2日の前後においても祝日休日などで10連休となる可能性が高いため、授業時数等の確保についてお願いした。

【学校給食センター所長】10月の学校給食の残菜率を報告する。小・中学校全体の平均では、18.97%となり、前年度の同月との比較では1.63%の増であるが、今年度の前月比較では、1.62%の減である。

【生涯学習課長】資料31ページで、月例報告の記載漏れがあるので追加をお願いする。10月24日に行った旧岩崎家末廣別邸の特別公開を追記願う。当日の参加者は59名で、昨年度より若干ではあるが参加者が増えた。次に、市の文化祭では、11月3日から5日まで3日間の日程で開催し、延べ参加者は3,380名であった。昨年度は5,216名の参加であったので、比較すると1,836名の減となった。参加者の

減については、開催日の曜日配列と体験教室の内容が昨年度と変わったことなどが影響したものと推測をしている。次に、11月11日の第2回家族でとみさと探検クイズラリーでは、128名の参加となり、教育委員の協力に感謝している。11月13日には、とみさとスポーツ健康フェスタの反省会議をスポーツ推進委員とともに行ったので、近隣市町の状況を含めて報告する。印旛郡市の6市2町を対象として、開催日や予算額及び特徴などについて調査を行った。その結果、本市と同様の体験型で行っているのは4市で、競技型で綱引き大会などを行っているのは1市1町、未実施が1町となった。また、反省会では、参加人数を増やす工夫として、綱引き大会を取入れるなどの意見があったが、結果としては、継続して検討するとともに調査研究を続けることとなった。

12月の予定では、14日に富里スイカロードレース大会実行委員会事務局会議、続いて20日には、第36回大会に向けて富里スイカロードレース大会実行委員会会議を予定している。

【図書館長】第1回企画展として行っている軽便鉄道の展示は、今月28日で終了を迎えるが、数々の新聞社などの取材も入り、多くの方の来館となった。遠くは愛知県豊川市からの来館もあった。

12月の予定では、冬のおはなし会を15日に予定している。

【教育長】各課等からの報告が終わった。質問等があればお願いします。

(なしの声あり)

8 その他

【教育長】次にその他に入る。何かあればお願いします。

【教育総務課長】本日添付した資料は、市議会12月定例会に際して、記者会見で発表した資料である。市立小・中学校のエアコン整備について、12月の補正予算として実施設計業務委託料を計上し、来年の1月から実施設計業務に着手、平成31年度にエアコン設置の工事を施工、平成32年度の夏までにエアコンが整備されていない全ての小・中学校の普通教室及び特別教室に導入を計画することを本日の記者会見で発表した。詳しい内容は、資料に記載しているが、小・中学校のエアコン設置に係る実施設計業務委託料として、2,829万7千円を上限に平成30年度に契約を締結し、平成31年度中に業務委託を終了するための債務負担行為の設定について、補正予算案として11月29日の議会初日に上程する。議会の配慮により上程の当日に採決する予定で調整が進んでいる。工事については、国の平成30年度の補正予算の中で、臨時特例交

付金という特別に創設された制度があり、3分の1の国庫補助が適用となる、その交付金の活用を予定している。

【教育長】本日、定例記者会見が行われ、その際の記者発表の資料を添付した、このことについて、質問等があればお願いします。

【委員】国の臨時特例交付金は、富里市への交付が決まったのか。

【教育総務課長】国の臨時特例交付金では、現在、全国の市町村が事業計画を提出している段階にあり、本市も未整備の全ての小・中学校の普通教室及び特別教室を対象とした事業計画を提出しているが、それらに対する内定等の結果は届いていない。国からは、事務の流れとして、11月中の内定、12月の交付決定というスケジュールが示されている。現在のところ、国の特例交付金制度は配分基礎となる額の3分の1が国からの補助となるので、その制度を最大限に利用するため、まずは実施設計を行い、平成31年度中に工事に着工したいと考えている。

【委員】国の臨時特例交付金の対象とならなかった場合であっても、予定どおりの計画で整備を進めていくのか。

【教育総務課長】今のところ、内定について不明であるが、国の内定がある前提で計画している。不採択となった場合は、市長部局の財政当局との協議になるが、エアコン設置については、教育委員会の第一優先順位の事業として決定をしているところである。

【教育長】他に質問等があればお願いします。

(なしの声あり)

【教育長】それでは、その他として他にあればお願いします。

【参事兼学校教育課長】富里市ジョイント・スクール推進事業については、従来の小中連携の考え方をより発展させて、小・中学校における義務教育9年間の教育課程上の接続を重視した学校運営を目指す考え方である。中学校不適応生徒の現状を解消し、児童生徒の学びと成長・発達の連続性を保障し、生きる力の育成を図るためにも、3中学校区のあり方を明確にし、小・中学校9年間の接続性や統一性をもった学園構想の考え方を基盤とした教育活動の充実が必要であると考えている。

本日配布した資料の1枚目では、右側は、各学園の主な取組をまとめている。今年度から富里市学校教育研究会とコラボレーションし、3学園一同にジョイント・スクール総会を開催し、各中学校長が学園長としての学園方針を学園教職員に直接伝えるようになった。今年度は4月12日に日吉台小学校で開催した。資料の左側は、意識調査アンケートの日程である。7月、12月、3月と3回実施し、その都度学校教育課で印刷、回収を行い、集計が終わり次第、各校に報告をしている。アンケー

ト結果の活用方法については、7月の第1回意識調査を例に説明すると、児童生徒へのアンケートによるチェックを行い、その結果によって学園の取組を振り返るためのアクションを起こし、年度初めに立てた計画であるプランを見直し、取組を実行していく流れとなっている。3月の3回目の意識調査の結果については、次年度の計画に役立てる仕組みとなっている。そのためこの資料では、PDCAのPからのスタートからではなくCからのCAPDのサイクル表示となる。資料3枚目では、まず上段にある意識調査アンケートの項目について説明する。「ア」学校が楽しい、「イ」みんなで何かをするのは楽しい、「ウ」授業に主体的に取り組んでいる、「エ」授業がよくわかる、の4項目として、シンプルなアンケート内容となっている。この資料は、平成29年度の数値と今年度7月に実施した数値を比較した表である。この結果を基に、各学園の状況を学校教育課で分析した点を説明する。中央学園においての成果は、小学校においては全体的に数値が高く、児童の満足度が見られる。また、小・中接続となる中1の状況では、これまで課題が見られたが今年度においては、高い数値が見て取れる。さらに中3の「ウ」の数値が徐々に上がっている状況である。課題としては、中2の数値が全体的に低下していることである。次に、北学園においての成果であるが、小学校においては、全体的に数値が高く、中央学園と同様に児童の満足度が見られる。また小・中接続となる中1の「学習状況」に課題があったが、今年度は数値が上がっているので2学期以降の取組にも期待をしている。課題としては、中3における状況が前年度よりも数値が下がったため、今後の進路指導に期待をしたいと思う。最後に南学園においての成果では、小学校においては、全てのアンケート項目にほぼ児童の満足度が見られる。これまでも南学園においては、国立教育政策研究所の指定を受け、魅力ある学校づくりの取組からジョイント・スクール推進事業への移行により、中1への滑らかな接続が進んできた。今年度はさらに数値が高い結果となっている。今後、学校教育課としては、その具体的取組を他の学園にも紹介したいと考えている。課題としては、中3の状況にある。今後進路指導も含め、授業がよくわかるという回答の数値を上げるための取組に期待をしている。

3学園全体としての成果は、小学校においては、どの項目もおおむね満足度が見られている。また、中学校の平成30年度の1回目の調査結果では、前年度の取組を振り返り、その具体的な反省を基に計画を立てたことが功を奏し、いわゆる中1ギャップの解消に向けた高い評価が見て取れる。唯一、南学園の中2の数値が高いことを受け、どのような取組

が功を奏しているのかを分析し、中央・北学園で活かせる取組があるならば紹介していきたいと考えている。3 学園に共通した課題においては、中3 の状況である。「ウ」授業に主体的に取り組んでいる、「エ」授業がよくわかる、の数值が低下していることが、「ア」「イ」のアンケート結果に影響を及ぼしていることも考えられる。やはり中3 となると、進路選択を迎え色々と悩む時期でもあるので、一層の教職員の授業改善に期待をしたいと考える。

最後に資料の2 枚目では、各学園の組織及び事業内容について、まとめている。富里市ジョイント・スクール推進事業の目玉でもある小・中交流会について、今年度の取組では、中央学園は、10月29日に県の事業でもある交通安全教室の一環として「スケアードストレイト」を実施し、学区小学校の6年生と富里中学校の全生徒での交流を図った。北学園は、1月末に成田高校の書道部を招き、日吉台小学校の6年生と富里北中学校1年生による創作活動を実施する予定である。南学園は、12月19日に順天堂大学の学生を招き、学区小学校の6年生と富里南中学校1年生によるスポーツ交流を開催する予定である。

【教育長】 ジョイント・スクール推進事業の説明が終わった。質問等があればお願いします。

(なしの声あり)

【教育長】 その他として、他にあればお願いします。

【委員】 富里中央公民館の予約の手続きについて、市民の中には、インターネットによる申込みへの検討要望や、毎月定期的に活動している団体は優先して使用できないかなどの意見がある。そこで、予約の手続きは、どのように行われているのか教えてほしい。

また、公民館の利用の仕方等について、アンケートが以前行われたようだが、その結果はどのようなものであったか、市民の声などがあれば知らせてほしい。

【生涯学習課長】 まず、公民館の予約手続きの方法について、現在は、月初めに公民館への来館により申込みをいただいている。その際、申込みの順番を決めるパソコン上のソフトウェアでくじを引き、その結果の順に申込みをいただいている。1 団体に偏った部屋の使用などがないよう公平な利用を目的として、申込にあたっては、いわゆる先取り方式ではない手続きとしている。概ね今のところ、月初めの平均で30人程度の申込みがあるが、特に、トラブルになったというような事例は聞いていない。

次に、インターネット等のシステム予約については、平成28年11月1日から平成29年2月28日までの間で施設の予約手続きに関するアンケート調査を実施した。このアンケートは、窓口のアンケート用紙による回答とホームページの入力フォームから回答により実施をした。総数は、597件の回答となり、そのうちホームページによる回答は25件、その中で「インターネットから施設の予約をしたいと思いますか」という問を設けたところ、回答は「はい」が249件、「いいえ」が305件、無回答が43件であった。このアンケート結果を踏まえ、公民館の施設の他に市民活動推進課が所掌する北部コミュニティセンターや中部ふれあいセンター、また、生涯学習課で所掌する社会体育館や中央公園野球場などの貸出施設も含めたシステム導入の検討について、継続して調査・研究をしているところである。直近では5月25日に芝山町を視察し、システム導入による効果や課題などを取材している。本市の今後の対応については、調査・研究を進めるものの、現行の本市実施計画等にはシステム導入の位置づけがないため、次期計画の平成33年度を見据えて、それらの内容が盛り込めるように引き続き検討していきたいと考えている。

【教育長】月初めに予約するのは、何か月先の予約になるか。

【生涯学習課長】公民館棟は3か月、講堂棟については6か月先の予約となる。

【教育長】他に質問等があればお願いします。

(なしの声あり)

【教育長】その他として、他にあればお願いします。

【委員】前回の定例会議で学校給食の残菜に関する説明があったが、関連として質問する。学校給食では、地元の野菜などの食材をどの程度利用されているか。

【学校給食センター所長】地元の食材利用について、平成29年度の実績で回答する。富里産は21.6%、富里産を含む千葉県産は38.4%、富里産及び千葉県産を含む国産全体では82.5%、残りの17.5%が外国産であった。また、富里産の使用食材は、野菜が中心であり、葉物は、小松菜、長ネギ、チンゲン菜、水菜、ニラなど、根菜類では、人参、大根などである。また、米については、年間を通じて100%富里産を使用している。その他の食材では、メニューによっては豚肉などで富里産を使用している。

【教育長】質問等があればお願いします

(なしの声あり)

【教育長】その他として、他にあればお願いします。

(なしの声あり)

9 教育長閉会宣言

【教育長】以上で、平成30年度第10回富里市教育委員会定例会議を閉会する。